



一般社団法人

日本病院薬剤師会

Japanese Society of Hospital Pharmacists

本会は、病院、診療所、介護保険施設に籍を有する薬剤師等を会員とする団体です。会員自らの資質の向上を図ることはもとより、質の高い薬物療法の提供を通じて、患者等国民の福祉や健康に寄与するために様々な活動を行っています。現在、病院薬剤師はチーム医療の中で薬剤師としての職能を活かし、薬物療法を適正化するとともに医療の安全を積極的に推進しています。

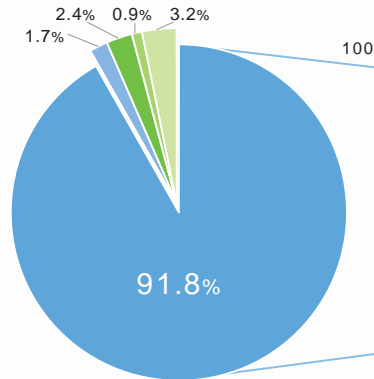
また、本会では毎月「日本病院薬剤師会雑誌」を発行し、会員の学術論文の掲載をはじめ、日病薬だより、研修報告等、医療や病院薬剤師に関する最新情報等を紹介しています。

本会ホームページには、本会の概要、学会・研修会等案内、専門薬剤師制度、医療機関向け情報や会員向け情報等、広く医療に関する情報を掲載しています。

本会には、全国の病院、診療所に勤務する薬剤師約55,000名のうち、約8割が入会しています。

平成28年3月現在

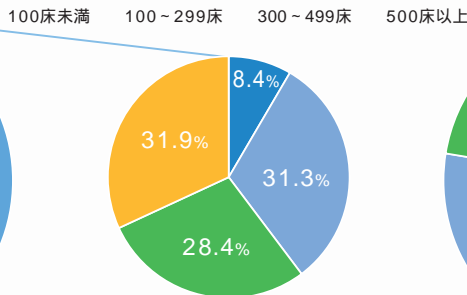
会員の所属施設 (全会員)



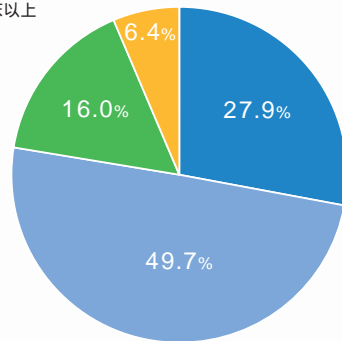
病院 診療所・介護保険施設
薬局 薬科大学・薬学部
その他、個人

会員数合計 約46,000名

施設規模別の会員数割合 (病院)



会員施設 規模別割合 (病院)



100床未満 100～299床 300～499床 500床以上
会員が1名以上いる施設

ごあいさつ

この4半世紀、日本の病院薬剤師の役割は劇的に進化してきました。特に、業務の視点が「モノ」から「ヒト」へ転換され、薬学教育も6年制となり既に10年が過ぎました。また、ファーマシューティカル・ケアの概念に基づき、薬剤師の責任のもとに薬物療法を提供し患者のQOLを改善するため、医療の質の向上及び医療安全の確保の観点から様々な業務改革を行ってきました。例えば、病棟活動としてチーム医療を展開し、個々の患者の薬学的管理による最適な処方提案、副作用の防止・重篤化の回避に貢献しています。また、化学療法のレジメン管理や抗がん薬の無菌調製、医薬品情報の収集と提供等々を実践しています。その結果、医療人の一員として病院・診療所、介護保険施設などで働く薬剤師に対する社会・患者の期待が高まっております。一方、日本は超高齢化社会を迎えようとしており、医療環境が激変し、医療の在り方が問われています。病院完結型医療から地域完結型医療への転換が計画されており、医療および介護の提供体制として「地域包括ケアシステム」が構築されようとしています。また、病院の機能分化も急速に進もうとしており、これまで以上に医療連携の必要性も高まっています。日本病院薬剤師会では、その様な社会情勢の変化に対応し、薬剤師の使命である有効で安心・安全な薬物療法の提供に貢献できるよう、組織をあげて対応すべく取り組んでいるところです。

一般社団法人 日本病院薬剤師会 会長 木平 健治

